

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	保育園夢未来井荻園
法人名	株式会社 我喜大笑
法人所在地	東京都港区新橋2-16-1 ニュー新橋ビル402

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

### ◆料理を楽しむ◆

調理器具を使って、野菜の形状の変化を知る  
収穫したさつまいもを使っておやつを作り、全園児にお店屋さんとしてふるまう  
和食の基本、「だし」を味わう

<テーマの設定理由>

給食で提供している野菜の切り方が、料理によって異なることに気が付き、特にミートソースなどの野菜がとても小さいことにどうやってこんなに小さくなったのか興味を持つ園児がいたので、フードプロセッサーを使ってみじん切りにしていることを説明した。そこから作ってみたいとの声が上がったので、実際に使って作ることにした。

給食室で作っている色々なおいが保育室に届き、「いいにおいがする」「おいしそうなおい」「何のおいだろう?」と感じる園児たちに、和食の基本である「だし」を味わう経験をさせてあげたいと思った。

## 2. 活動スケジュール

- 10月 フードプロセッサーを使ってミートソースを作る
- 11月 収穫したさつまいもで春巻きを作り、おやつにお店さんごっこをして全園児に提供する  
提供後、掃除機をかけてお店屋さんをきれいにする
- 12月 お米をといでご飯を炊く  
だしを取ってみそ汁を作る

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

準備した調理器具：フードプロセッサー・包丁・まな板・ザル・ボール・卓上IH・炊飯器  
鍋・フライパン・スパチュラ

環境の設定：園児がけがをしないよう落ち着いて作業するために椅子に座り、テーブルの上にフードプロセッサーを置いて行った

## 4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 10月2日：生野菜をフードプロセッサーにかけてみじん切りにし、野菜と挽肉を炒めて味付けをして煮込んでミートソースを作る  
出来立てのミートソースは自分が食べられる食べたい量を各自盛り付けをして食べる
- 11月12日：茹でたさつまいもを潰して、スイートポテトのように作り、春巻きの皮に包む  
調理室で揚げたものを、園児たちがはるまき屋さんになって、全園児に提供する  
全園児が同じ部屋で食べたので、床に落ちた食べかすなどをぞうきんや掃除機を使ってきれいに掃除してから閉店する
- 12月10日：お米をといで、炊飯器で炊く  
昆布・かつおだし汁を取り、だしを味わった後、自分たちで切った野菜を入れてみそ汁を作る  
(乾物の昆布に触れたりにおいを嗅いだりした後、だしを取った後の昆布を見せて変化を楽しむ)

## <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

調理前の生野菜の形から、フードプロセッサーにかけることによってあっという間にみじん切りに形が変わる様子や、にんじんは回している間の音が一番大きく、柔らかいピーマンは音が小さいことなどに気づき驚いている姿が見られた。だし汁を味見したときは、「おいしい」「あまり味がしない」「薄い味がする」「色がきれい」「いいにおい」などそれぞれ楽しみながら味わっていた。みそを入れた後に味見をしたときは、目を見開いて「おいしい！」という園児たちの姿が見られた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

大人にとっては調理器具を使って調理することが日常なので特に意識することがない音や形状の変化が、子供にとっては初めての発見であり大事な気づきであるということを改めて感じた。

自分で触って、調理器具を使って作って食べる。これが子供にとっては保育園の活動の中でも特別感があり、苦手な食材にもチャレンジする意欲へと繋がり自信となる大事な経験なのだと感じた。

自分の目で調理工程の変化を見て、鼻でだしの香りやミートソースの煮込んでいる匂いを嗅いで、耳で野菜を切る音や、お鍋でグツグツ煮込んでいる音を聞いて、手で乾物に触れたりお米をといて、自分たちで作った料理を味わうといった五感を使ったクッキングを通して、子供たちの食への興味関心をさらに高めていきたいと思った。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	保育園夢未来井荻園
法人名	株式会社 我喜大笑
法人所在地	東京都港区新橋2-16-1 ニュー新橋ビル402

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

### 音楽

- 色んな音を知る
- 色んな音(楽器)を楽しむ

<テーマの設定理由>

子ども達の日常のなかでさまざまな音に囲まれ生活しているが、生活音や自然音だけでなく楽器の音など意識を向ける事で音への興味関心に広げ豊かな感性を育てたいと思った。  
音を通して「どんな音がした?」「これは何の音?」など対話を広げて共感や発見の喜びを共有する体験に繋がりたいと思った。

## 2. 活動スケジュール

令和7年11月後半、12月～2月

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

準備したもの：ピアノカ、鈴、タンバリン、マラカス、ギーロ、鉄器  
環境の設定：屋外での音探し。自由に楽器に触れられるような環境設定。楽器演奏会(クリスマス会、発表会)

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

・日々の生活の中で室内・屋外ではどんな音がするのか皆で探してみた。皆で見つけた音を共有しながら音への興味へと繋げるようにした。

・クリスマス会や発表会などで楽器を使うのでそのタイミングで様々な楽器に興味を持てるよう「ピアノ」「鈴」「タンバリン」「マラカス」「ギーロ」「鉄器」を用意して楽器に触れられるようにした。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・まずは「身近な音を探しに行こう」と散歩に出かけると子どもたちは積極的に音探しを楽しみ始めた。公園や園周辺を散歩する中で出会う車や信号機の音、電車の音、鳥の声など様々な音を見つけて楽しんでいった。

・クリスマス会や発表会を行う前にまずは色々な楽器に興味を持てるよう、たくさんの楽器をテーブルに並べてそれぞれ自由に触れられるようにした。それぞれ好きな楽器に触れて音を楽しむ姿が見られた。クリスマス会や発表会では音を楽しむ事とさらに皆で音を合わせて音を出すという合奏にも挑戦し楽しんで演奏を行う姿が見られた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

「音」をテーマにすることで今まで意識していなかった日常の生活音の中での楽しさを見つけていられて良かった。また、色々な楽器に触れることでたくさんの音を知ったり皆で音を合わせて合奏する楽しさを味わうことができ良かった。引き続き音に触れる機会を作っていきたいと感じた。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	保育園夢未来井荻園
法人名	株式会社 我喜大笑
法人所在地	港区新橋2-16-1 ニュー新橋ビル402

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

### 日本を含め世界を知ろう！

- ・日本地図や世界地図を使ったり国旗のカードや絵本を用意し興味を持ってもらう
- ・海外の玩具で遊んでみる
- ・日本の郷土料理や世界の料理を知り食べてみる

<テーマの設定理由>

日々の中で英語教室では外国の講師から英語を学んだり、給食の中で日本の各県や海外の料理が出てくる事があり自然と「どんなところなんだろう」「こんなものをたべてるんだ」と興味を持っていたので世界をテーマにした。

## 2. 活動スケジュール

- 10月…給食に「台湾」の料理が出たためどんな国なのか知ろうとする。
- 11月…海外の玩具で遊んでみる。
- 12月…正月に向けて凧製作に取り組む。
- 1月…日本ならではの正月遊び、伝統行事に触れ意味を知ろうとする。
- 2月…遊びの中で色々な国を知る。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・世界各国の国旗を用意する。
- ・日本地図、世界地図を子ども達の目線に入るように貼っておく。
- ・絵本や図鑑を用意し自由に見られるようにしておく。
- ・書道セット、凧製作セットを用意する。
- ・七草や鏡餅など栄養士と連携し用意をする。
- ・世界の玩具を用意する。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

目に見えるところに日本地図や世界地図を貼っておき一緒に見ながら自分たちの住んでいるところ以外の県や国を知ったり、自由に遊べるコーナーに国旗のカードを置いておくことで友だちや保育者と問題を出し合って色々な国を知る事が出来た。また、料理で違う県や外国の料理が出た時には国旗や地図で場所を探して確認する事でより親近感を感じることが出来ていた。また、海外発祥のゲームなどを出して遊んでみることで色々な遊びを知るきっかけとなっていた。正月には書き初めをしたりと正月ならではの日本の遊びにも触れる機会を持ち、自分の国の文化にも興味を持って知る事が出来ていた。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

日本地図や世界地図を貼っておくことで、字が読める児は「ここ知ってる」「おばあちゃんが〇〇(県)だよ」と言いながら保育者に知らせてくれていた。また知っている国がある事で、国旗はどんな模様なんだろうと興味を持って見て見たりする姿が見られた。ちょうど冬季オリンピックもあつたりと家でも色々な国の名前を聞く機会があつたようで話題に上がる事もあつた。また、自由に国旗カードを出して遊べるようにしていた事で並べてみて似た国旗を集めたり、カードを見て国名を当てたりと楽しむ姿も見られた。給食に郷土料理や海外の料理が出た際には食べる前に紹介する事で終わってから地図を見て探してみたりと興味を深めること出来ていた。正月には書道セットを用意し筆を使って干支を書いてみたり、こまや福笑い凧揚げなどの伝統遊びも楽しむ事が出来た。また、海外発祥のゲームを出して遊ぶ事で多文化に触れたりルールを知り楽しめていた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

普段自分の国の事は知っているようで知らない事も多く深く知る事で、行事や文化、食に対してより興味を持つ事が出来た。子どもたちからも地図や遊びを通して日本や外国についての知識が増え世界が広がっていく様子が見られよかつた。その中でまずは日本の文化に触れる体験を持ったり、行事などの意味を知り体験していく大切さを改めて感じる事が出来た。普段の遊びの中でもブロックで国旗を作ってみたりと何気ない日常の中でも色々な世界が広がっていくので子どもたちの興味を見逃さずに一緒に知り楽しんでいきたいと思った。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	夢未来井荻園
法人名	株式会社 我喜大笑
法人所在地	港区新橋2-16-1 ニュー新橋ビル402

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

自分の好きな色があったり、制作で色を塗るのが好きな子どもたちなので自分の好きな色を塗りつつ色が混ざったらどうなるのか、何色になるのか学べるようにした。また、散歩の際に草や花などの自然を観察しながら自然の中にある色に興味を持てるようにした。

## 2. 活動スケジュール

- ・絵の具を使って2月の制作をする。好きな色を2色選んで混ぜた色を画用紙に塗り、画用紙を半分に折ってデカルコマニーをした。(1月)
- ・周辺散歩で桜を見に行き、どんな色をしているのか確認し、制作で桜の木を画用紙で作った。(3月)

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・絵の具(赤、青、黄、緑、白)
- ・クレヨン
- ・絵の具を入れるカップ5つ
- ・ハサミ
- ・色を混ぜるカップ
- ・のり
- ・筆
- ・水
- ・画用紙

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

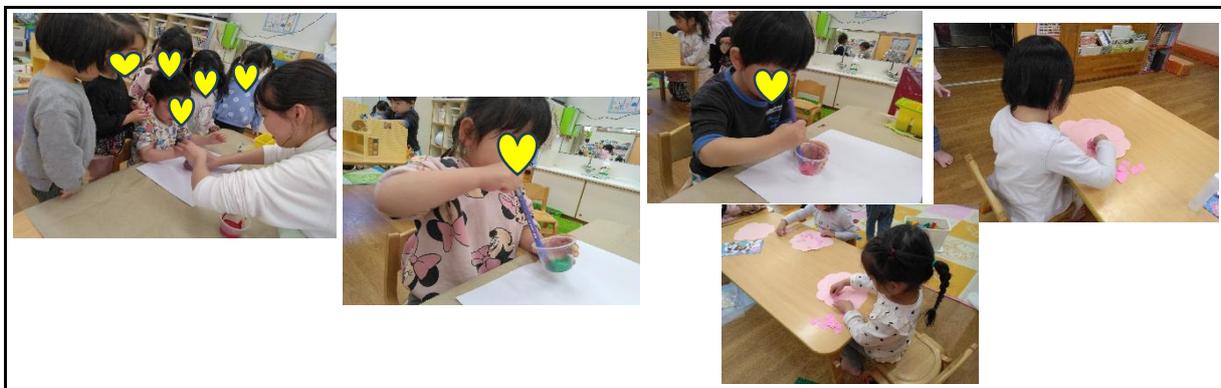
①色を5色用意しカップに入れて置いておく。好きな色を2色選んでもらい、カップの中で混ぜてどんな色になったのかを知る。その色を筆で画用紙に塗り、画用紙を半分に折ってデカルコマニーをした。  
(1月)

②周辺散歩で草や花などの自然のものを観察し、何色なのか保育者や子ども同士で会話を楽しみ、実際に見た桜の花を制作した。ハサミでピンクの画用紙を切り、台紙に貼って桜を表現した。(3月)

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・選んだ色を混ぜるときに保育者と「何色になるかな?」「緑になると思う!」と予想したり、混ぜた色を見て「ピンクになった」「紫になった」と教えてくれる姿があった。「なんで紫になるのかな?」と疑問を持つ様子もあった。制作し終えた児が他児と「どんな色になった?」と話す姿も見られた。

・桜の木の制作をするときに「桜はピンクだったね」と保育者や他児と話す姿があった。紙を切る事を楽しんだり、切った紙をくっつけて貼ったり、バラバラに貼ったりと自分なりに考えて貼る姿が見られた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

・たくさんの色を知る事はできていたが“混ぜるとどうなるか”というのはやったことがなかったので、実際に色を混ぜて知ることが出来た。また、混ぜる前に「混ぜたら緑になると思う!」と自分なりに予想する姿もあり、混ぜた時に一緒に正解を確認する事ができた。また、好きな色を自分で選んで自分で混ぜ、自分で画用紙に好きなように描くという、自分で選択する楽しさも経験できたと思う。

・散歩で見た自然の色や桜の印象を制作に繋げる事で、身近な自然への関心を深めながら表現を楽しむ経験になったと感じた。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	保育園 夢未来 井荻園
法人名	株式会社我喜大笑
法人所在地	東京都杉並区上井草1-23-15シャルマン井荻1階

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

- ・おはなしに触れよう
- ・視覚的に楽しもう

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)  
・春から絵本の読み聞かせやペープサート、パネルシアターなどで物語に触れる機会を多く設けていくなかで、自分たちでも絵本を読みだすことが増えていった。そのため、『おはなし』をテーマに設定した。

## 2. 活動スケジュール

- ・帰りの会の前にあるお話の時間の時に、パネルシアターやペープサートを使って物語を楽しめるようにする。
- ・おべんとうバスの劇に向けて、おべんとばすのうたを視覚にも理解して楽しめるようにする。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)  
・パネルシアター・マグネットシアター・ミュージックシアターを準備した。  
・環境としては、子どもたちがより集中できるように、話を読む保育者の背景には玩具など子どもたちの興味に移ってしまうものは置かないように配慮した。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

・様々な物語の中から、2月の発表会ともつながりのある『おべんとばす』のミュージックパネルシアターを子どもたちと楽しんだ。歌自体は春先から手遊びとしても楽しんでいたので親しみはあったが、歌詞の内容はあまり理解が出来ていなかったなのでパネルシアターを用いて表現した。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・歌を口づさみながら手遊びの振り付けをする子もいれば、パネルに登場する様々な具材を真剣に見つめる子など反応はそれぞれだった。何回か披露するうちに子どもたちが次に登場する食材の名前を言ったり、隣で手遊びを始める子を真似する子も出てきた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

・歌詞には「塩鮭」「はんぺん」など子どもたちにはあまりなじみのない具材もあって、音では知っていても実際はどんな形なのか分かっていなかったが、視覚的にとらえることによってさらに理解が深まっていた。

・実際にパネルシアターを見た後のほうが、子どもたちの「おべんとばす」への歌への反応がよくなっていった。

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	夢未来井荻園
法人名	株式会社我喜大笑
法人所在地	東京都港区新橋2丁目16-1 ニュー新橋ビル402

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

音

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・ 戸外でさまざまな音に気付くため。
- ・ 自発的な音遊びを通して、音への関心や興味を持てるように設定した。
- ・ 絵本が好きな子どもが多いので、リズム感が楽しい絵本を読み抑揚や音の繰り返しを楽しみながら保育者との心地よいやり取りや情緒の安定にも繋げていきたいと考えた。

## 2. 活動スケジュール

- ・ バギーは普段の散歩中（公園までの往復や周辺散歩）
- ・ マラカスはクリスマス会、楽器遊び
- ・ 絵本は発表会、昼寝前の読み聞かせ等

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ バギーは「電車の音がするね」など声を掛けたりゆっくり進み、音探しを楽しめるようにした。
- ・ マラカスを口に入れて動き回ったりしないように、椅子に座って遊ぶようにした。
- ・ 絵本を繰り返し読んで内容を覚えられるようにした。
- ・ おんぶ紐・CD

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ・商店街や広い公園にバギーに乗って行き、音を探した。
- ・マラカスは室内遊びで使用。椅子に座って子どもたちの好きな音楽を流した。クリスマス会のクラス発表で“雪だるまのチャチャチャ”の曲に合わせて演奏した。
- ・だるまさんシリーズの絵本を発表会で披露できるように飽きない程度に何度も読み返し、保育者が読む時のリズムを覚えたり身体で表現する楽しさを知っていけるようにした。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- (活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
- ・バギーに乗り、好きな電車や踏切の音に反応して指をさしたり、風が強く吹いた時は上を見上げて葉や草が揺れるのを興味津々で見ている。
  - ・好きな音楽を流すとリズムによってマラカスを振っていた。クリスマス会で披露した雪だるまのチャチャチャは最初は知らない曲で反応が薄かったが、繰り返し練習していくうちに覚えたと保育者を見ながら真似してマラカスを振り、楽しめていた。
  - ・絵本を繰り返し読むことで保育者が絵本を持っていくだけで内容を理解し、体を横に揺らしたり読み聞かせを楽しそうに待つ姿が見られた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・普段の周囲の音に興味になさそうでも保育者が話しかけることで気づき、音に興味を持ってより散歩を楽しんでいた。
- ・口に入れようとすることもあるが、好きな音楽を流したり保育者が楽しそうにマラカスを振っている姿を見て真似しようとする姿が見られた。振る、たたく、押して遊ぶことで音色の違いに気づき楽しめた。
- ・繰り返し絵本を読んで覚え、保育者が絵本を持っていなくても「だるまさんが～」と言うだけで反応して体を揺らしたり、声を出して表現していた。